

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

南河内地区唯一の夜間定時制高校の意義を踏まえ、地域に根差した教育活動を行い、将来地域を担う人材を育成し、地域と共に歩む学校をめざす。

- 1 働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開する。
- 2 生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。
- 3 地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

## (1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用を推進し、授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした、授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。

## (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に合った、基礎的・基本的な学力の定着をめざした、教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(H29:63.8%、H30:65.2%、R01:78.9%)を、令和4年度には80%以上に引き上げ維持をする。

## 2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

## (1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通して、豊かな人間性や自尊感情・自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など、生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

## (2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて、社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率(H29:57.0%、H30:100%、R01:77.8%)100%をめざし、就職希望者の内定率(H29:60.9%、H30:69.7%、R01:72.4%)を、令和4年度には学校斡旋就職希望者の内定率80%以上をめざす。

## (3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。
- イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における、学校に対する満足度(H29:66.9%、H30:72.6%、R01:74.4%)を、令和4年度には肯定的回答を80%以上にする。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」(H29:55.1%、H30:58.9%、R01:63.1%)を、令和4年度には70%に引き上げる。

## 3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

## (1) 生徒たちの安心と安全のための取組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して、交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を、学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

## (2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど、家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め、生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深め、「クリーンキャンペーン」等の取り組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを進める。

エ 転編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。

オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(H29:77.0%、H30:81.7%、R01:80.7%)を、令和4年度には85%以上をめざす。

## 4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

## (1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと、PDCAサイクルによる学校経営を推進する。
- イ 働き方改革を進めるため、分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかに課題解決に臨む。

## (2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※令和4年度には校内研修、報告会、連絡会を合わせて年間10回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを行う。

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年8月～12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒・保護者・教員について、昨年度との変化を見るために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒…74.5%→68.1%、保護者…42.4%→57.8%、教員…81.5%→100%であった。生徒と保護者共、回収率を上げるために、引き続き、試験期間や懇談や家庭訪問の機会等を利用し、また返信用封筒を入れて郵送する等工夫する必要がある。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒「わかりやすい授業が多い」(78.9%→71.9%)。保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(61.0%→60.8%)。教員「教材の精選・工夫を行っている」(100%→95.8%)、「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(95.4%→95.8%)であった。教員の「教材の精選・工夫を行っている」が(100%→95.8%)に減少しているのが気になる。今後も、日々授業内容を工夫改善しながら実践する意識を持って欲しい。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒「学校に行くのが楽しい」(72.0%→66.7%)、「先生は生徒達のことを、よく見て対応してくれる」(79.0%→82.3%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(76.4%→80.2%)。保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(93.2%→86.4%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(91.6%→87.8%)。教員「生徒指導において、家庭との連携ができてきている」(90.9%→95.9%)。結果を見ながら、引き続き個々の生徒に対して丁寧な指導し、更に保護者と連絡を密に取りながら理解と信頼を得たいと考えている。</li> <li>生徒「人権の大切さについて学ぶ機会は多い」(70.2%→71.9%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(76.3%→86.7%)。保護者「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(88.2%→89.1%)、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(93.3%→90.5%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(93.2%→91.9%)等、教科以外の教育活動の内容について、概ね好結果が得られている。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員向け学校教育自己診断における学校運営についての満足度(77.8%→75.8%)、肯定的な回答が16項目中前年度を上回っているのが(6→7)であった。各項目を精査し、経営戦略会議の有り方を再考し、教職員と頻繁にコミュニケーションを図りながら、組織の維持運営について首席を中心に、次年度の学校運営に生かしたい。</li> </ul>	<p>&lt;第1回 令和2年7月13日(月)&gt;(書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の学校経営計画及び学校評価について、重点項目を絞り、より高い評価指標を設定し、チャレンジしていくことも必要であると考えている。</li> <li>藤井寺工科高校の特徴である、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用(事例等の報告)の効果のアピールを。</li> <li>自粛要請の影響で、精神的不調をきたす生徒への対応をSCやSSWの方と協働してお願いしたい。</li> <li>進路指導の教員と生徒の面談は、就職率を上げ、離職率を低くする面でも効果的、継続を希望。</li> <li>全教員が協力し消毒している姿から生徒が学ぶことも大きいと思う。より一層感染予防を。</li> <li>最近、マスクをしていない生徒が多いと聞くので、マスク着用や消毒の徹底をお願いする。</li> <li>広報・情報委員会設置、ホームページの更新や新たな連絡網の導入は、新型コロナウイルス対応だけでなく、災害時の安否確認等々、SNSの活用は、非常に重要な取り組みである。</li> <li>オンライン授業の構築、オンライン学習支援システムの対応は今後必要不可欠。両方に言えることだが、「Wi-Fi環境等SNS環境を持たない学生や家庭」への対応が課題である。</li> <li>校区美化活動について教育委員会から表彰され、喜んでると共に住民は感謝している。</li> <li>先生方にエールを送ると共に、学校運営を続ける難しさを理解している。その対応が正しかったか否かは、後々にしかわからない事なので、関係者が知恵を搾って出した結論なら迷うこと無く進めて欲しい。生徒および関係者の方々の安全を願っている。</li> <li>緊急時だからこそ、学校や先生方から生徒の皆さんにプラスに考えてもらえる様、それぞれに合わせたいいアドバイスができれば、新たな励みや目標が生まれると思う。</li> </ul> <p>&lt;第2回 令和2年11月17日(火)&gt;(対面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SC、SSWとの関わりを踏まえた生徒指導を丁寧に行っているのが、貴校の良い点なので報告待つ。</li> <li>自信のなかった生徒が立ち直った事例、SC及びSSWとの関係を踏まえて成長した事例なども、年度末の報告で聞きたいと思う。</li> <li>地域連携が実施されていることに、自治体の方から感謝の言葉が上がった。改めて感謝する。</li> <li>リモート授業、ICT環境の整備等、是非お願いする。</li> <li>編転入生の受け入れ、非常にありがたい。ただ、高卒資格がゴールではないので、引き続き、社会に出てから必要になる力を、身に着けることができるような指導をお願いしたい。困り感を持った生徒の再チャレンジにも応えてあげて欲しい。</li> <li>コロナ禍で不安な中、生徒に寄り添い、進路指導及び行事の実施、今後も頑張りたい。</li> <li>行事の開催はありがたいが、保護者としては、直接見ることができないのが少し寂しい。先生の支えがあって、学校が成り立っているのも、これからもお願いしたい。</li> <li>一人一人に真心を持ち、生徒と関わっている校風が素晴らしい。感染症に負けず頑張りたい。</li> </ul> <p>&lt;第3回 令和3年2月12日(金)&gt;(書面開催)</p> <p>(1) 学校教育自己診断アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の行事への参加の低さと、教員用で前年度に比べ低下している部分を検討するべき。</li> <li>教員が進路指導に戸惑われている様に見られ、生徒達が不安に感じているのではと危惧します。</li> <li>各項目とも、③④の高評価があり、生徒・保護者・教員の一体感が感じられた。</li> </ul> <p>(2) SC・SSWの活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SC、SSWと教員の協働による丁寧な対応は大きな魅力。今後、一人も取りこぼさない支援を。</li> <li>コロナ禍における日常のストレスに加え、仕事やアルバイト勤務の減少による経済面での不安が長期にわたっているため、細やかなケアをお願いしたい。</li> </ul> <p>(3) 資格取得状況、各部活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得支援も重要な特徴である。就労の可能性も広がり、自己有用感の向上にも繋がる。今後も継続を。部活動加入率の増加は良い。部活動を通して、人間関係の拡大も望む。</li> <li>電気系の資格受験に取り組んでみてはどうか。文化系の部活動でも、大会への出場目標を。</li> <li>資格取得をめざす生徒がもっと増えて欲しい。運動部の回数を統一して欲しい。</li> </ul> <p>(4) 令和2年度学校経営計画及び学校評価(案)及び令和3年度学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標を踏襲することも大切だが変化が少ないと感じた。「めだま」になるような新しい取組みを。</li> <li>SC・SSWのアドバイスで不登校生が登校再開できたことは大変嬉しい。「なごみカフェ」「相談室」等も、リモートやネット環境を絡め多くの先生や生徒が集えるように工夫を。</li> </ul> <p>(5) その他(ご意見・ご感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、安全に配慮し、無事に教育活動を遂行されている事に感心賞賛します。</li> <li>コロナ禍で、弊社では「こんな時だからこそ」何か実りや色々な発掘を皆でしている。発想の転換でプラスに。SC・SSWの更なる充実で、見えにくい心のケアを期待する。</li> <li>学校運営については大変だったと思う。その中で修学旅行等の行事実施し、生徒から信頼される教育活動を継続していることで、参考にするべき事が多々あった。</li> <li>入学して間もない不安の多い1年生を対象に、仕事と学校の両立について卒業生が語ってもらう企画等を検討してみてもどうか。</li> </ul>

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)生徒の基礎学力を向上させる</p> <p>ア 生徒の学習意欲を高める「わかる授業」の実現。</p> <p>イ 生徒の基礎学力の定着。</p> <p>ウ 教員の更なる授業力向上</p> <p>(2)生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。</p> <p>イ 特別非常勤講師等の外部講師の積極的活用、本物に触れる教育。</p>	<p>ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用を推進し授業内容・方法の改善を進める。</p> <p>イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として、学び直しを目的とし、反復練習を主としたモジュール授業(理、数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。</p> <p>ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルマナー検定2級と3級に複数名参加し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。</p> <p>イ 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや、資格取得指導・進路講話など、生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、80.0%以上に引き上げる。(R01:78.9%)</p> <p>イ 年度最初の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率1.70倍をめざす。(R01:1.68倍)</p> <p>ウ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。(年1回)</p> <p>イ 外部講師の実践による指導を活用し、300hの授業に関わってもらう。(R01:332h)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」…71.9% (△)。一つには、コロナ禍による欠席や土曜日授業の欠席が影響していると考えられる。様々な課題を抱えた生徒に対して、興味を引くため、更に内容に工夫を凝らす必要があると考える。</p> <p>イ 6月の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率…1.54倍 (△)。実施時間の工夫が必要。</p> <p>ウ ユニバーサルマナー検定は、コロナ禍により3級1名のみ受検し合格。ユニバーサルマナーについての教職員研修…1回実施 (○)。職員室や学年会・教科会等にて受講者と情報交換しながら、弱者に寄り添う視点を取り入れた授業づくりについて行っている。</p> <p>イ 外部講師の実践による指導を授業に活用した…350h (○)。在籍生徒が減る中、次年度も現状を維持していきたい。</p>
2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ	<p>(1)志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。</p> <p>ア 「農園実習」やボランティア活動を通しての教育。</p> <p>イ 「寄り添う教育」を基幹とし、生徒の規範意識の醸成。</p> <p>ウ 校種間連携での豊かな人間性育成。</p> <p>(2)キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。</p> <p>ア 入学時から進路指導を実施。就職支援体制整備。</p> <p>イ 進路につながる資格取得のための支援の充実。</p> <p>(3)中途退学・不登校減少の取組み。</p> <p>ア 中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用。</p>	<p>ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。</p> <p>ウ 支援学校等との共同学習を実施する。</p> <p>ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。</p> <p>イ 進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。放課後や短縮授業期間、夏休み等を使い講習を行う。</p> <p>ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校を減少させるための充実重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや、教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度76%にする。(令和元年度74.4%)、ボランティア参加者を在籍数の28.0%以上の人数を確保する。(R01:26.0%)</p> <p>イ 「クリーンキャンペーン」を年間5回実施継続する。(R01:5回)</p> <p>ウ 年2回の支援学校との共同学習を継続実施。(R01:2回)</p> <p>ア 進学希望者の進学率100%をめざし、就職希望者の内定率(R01:72.4%)を75%以上にする。</p> <p>イ 資格取得数を、年間延べトータル数を在籍者数の40%以上をめざす。(R01:37.3%)</p> <p>ア 中途退学率を、4.0%以下にする。(R01:4.2%) (ただし連絡が取れないなどの理由で、数年前から籍だけ残っていた生徒の在籍を整理した結果は9.0%になった。)</p> <p>イ SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議を昨年並みに実施する。(R01:27回)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「学校に対する満足度」…74.3% (△)。教員の生徒一人一人に寄り添った教育活動を推進・継続したい。ボランティア参加者…7.8% (一)。コロナ禍の影響があり機会を設けることができなかった。来年度も、自己有用感を育成すべく、啓発していきたい。</p> <p>イ 令和2年度、「クリーンキャンペーン」は、本校関係者のみで実施…4回(一)。コロナ禍の影響がなければ、地域の方々とも一緒に実施できたと考えられる。次年度も継続する。</p> <p>ウ 支援学校との共同学習は、コロナ禍により中止した。例年通りなら2回実施した。(一)</p> <p>ア 本年度、進学希望者の進学率…50.0% (一)、就職希望者の内定率…76.0% (一) (R03.03.11現在)。コロナ禍の影響による経済的な理由等があると思われる。入学年度キャリア教育を実施し、生徒自ら進路選択し、実現できるようサポートする。</p> <p>イ 本年度の資格取得数…26.4% (一)。生徒数の減少や検定料の値上げ、またコロナ禍による受験取り止め等の影響が大きいと考えられる。来年度も個々の能力に応じた指導を継続する。</p> <p>ア 中途退学率…9.1% (△)。引き続き、「なごみカフェ」や教育相談室等の居場所を確保し、教員が細やかな対応をしていく。今年度は不定期になったが、学生ボランティアの役割も大きい。</p> <p>イ 本年度、SSW や SC も含めた、ケース会議やコア会議…33回実施。SCのカウンセリングや、SSWのアドバイスで不登校生が登校を再開できた。(◎)</p>
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	<p>(1)生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。</p> <p>ア 校内の教育相談体制の充実。</p> <p>イ 交通安全指導</p> <p>ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育の実施。</p>	<p>ア 多様な生徒・保護者の相談や、相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実を図り、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用を図る。</p> <p>イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室の実施、生徒・保護者への啓発等、充実を図る。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」を65%に引き上げる。(R01:63.1%)</p> <p>イ 交通安全教室を年間3回開催。(R01:3回)</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室を年間2回開催する。(R01:1回)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる」…59.4% (△)。居場所づくりや様々な行事を通じて生徒と接する時間を確保しカウンセリングマインドを持って生徒に接していきたい。</p> <p>イ 交通安全教室…4回実施 (○)。コロナ禍によって、スケアード・ストレイト方式(スタントマンによる事故の再現等)の講習会や警察官の講話は、実施できなかった。</p> <p>ウ 薬物乱用防止教室開催…2回 (○)。大麻乱用が極めて深刻な状態となっている。薬物乱用防止に努めたい。</p>

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

	<p>(2)家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。</p> <p>ア 家庭との連携による生徒出席状況の改善。</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、生徒理解や生徒支援の充実を図る。</p> <p>ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方等、地域と共に歩む学校づくりを進める。</p> <p>オ 合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。</p>	<p>ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。</p> <p>ウ 近隣の幼稚園等の園・地域の人々を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。</p> <p>オ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。</p>	<p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を82%以上にする(R01:80.7%)</p> <p>イ 生徒出身中学校全校訪問を維持する。(R01:42校)</p> <p>ウ 年間に10団体程度を農園に招待する。(R01:11団体)</p> <p>オ 合理的配慮に関する研修会を2回行う。(R01:2回)</p>	<p>ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度…81.0% (○)。引き続き、保護者との連携(電話連絡、家庭訪問・郵送等)を深めていきたい。</p> <p>イ 生徒出身中学校訪問…38校(コロナ禍の影響により38校訪問、4校電話資料送付)。8名の学校見学者があった。定時制のニーズを発掘し、伝達していく。(○)</p> <p>ウ 農園に招待…2団体、60名(一)。コロナ禍により招待することが難しかった。2団体については感染対策を徹底し招待した。次年度も近隣地域の方々や幼稚園児・支援学校生徒等との交流を図っていきたい。</p> <p>オ 合理的配慮に関する研修会…2回実施(○)。今後もSC及びSSWを中心に、様々な角度からの研修を実践していく。</p>
<p>4 学校運営の活性化と教職員の資質向上</p>	<p>(1)学校運営の活性化を図る。</p> <p>ア 学校経営の推進</p> <p>イ 働き方改革を推進する。</p> <p>ウ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)教職員の資質向上を図る。</p> <p>ア 日常的なOJTの推進と校内研修の活性化</p> <p>イ 教職員の資質向上及び校内運営を担う人材の育成</p>	<p>ア 経営戦略会議(准校長・教頭・首席・教務部長・生活指導部長)を定期的で開催する。随時経営計画の進捗状況について検証し、関係者・関係分掌と調整を行う。</p> <p>イ 分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を定期的に行い、速やかに課題解決に臨む。</p> <p>ウ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>ア 日常的なOJTの推進を図るために、教職経験の長短を考え職員室の机配置を工夫する。また職員会議等を利用した校内研修の活性化を図る。</p> <p>イ ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>ア 経営戦略会議の年間40回以上実施(R01:45回)</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」(R01:86.4%)を、88%に引き上げる。ストレスチェック総合リスク(R01:66)を、維持する。</p> <p>ウ 教員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を80%以上に引き上げる。(R01:77.3%)</p> <p>アイ 外部研修会へ積極的に推薦し、校内研修・報告会・連絡会を合わせて、10回以上実施する。(R01:4回)</p> <p>ただし、働き方改革を視野に入れ、また生徒と触れ合う時間、教材研究・生徒指導等の時間確保のため、取り立てての研修会を少なくし、全教員で共有できる様に、職員会議後を利用し、その都度研修会・報告会・連絡会を短時間で簡潔に実施する。</p>	<p>ア 経営戦略会議…46回(○)</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」…87.5%(○)。今後も各種委員会や打合せを実施し、生徒の情報等について教員間で共有していきたい。ストレスチェックの総合リスクについては、基準値を大きく下回り69と概ね良好な状態にある。今後は、更に業務の平準化や風通しの良い職場環境をめざす。</p> <p>ウ 教員向け学校教育自己診断「教育全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」…75.0%(△)。第3回学校運営協議会で協議予定。指摘された部分について次年度に改善をめざす。</p> <p>ア 各種校内研修…4回実施(一)。コロナ禍による規模縮小の中でも感染対策を徹底し実施した。今後も現状に即した校内研修を企画・立案・実施していき教員の教育力を向上させる。</p> <p>イ 校内研修報告会に代えて、学年会・教科会・分掌会、職員会議での情報共有等にて、受講者を中心に報告や情報交換を行った。積極的に研修に参加する教員が多く、外部研修会へ延べ30人を推薦した。次年度は、働き方改革を視野に入れ、外部研修で学んだ内容を、全教員で共有できる様に、職員会議後を利用し、その都度研修報告会を短時間で簡潔に実施したい。</p>